

静岡県学校安全教育目標

命を守る力を育てる

～学校安全計画推進のために～



静岡県教育委員会

はじめに

子供たちが学校で安心して勉強やスポーツ、芸術活動に励み、それぞれの夢に向かって努力する環境を整えるために、「学校の安全」が確保されることは、必須条件であります。

また、包摂的で安全な社会を持続的に構築していくためには、学校においても家庭、地域、警察、行政と連携して「生活安全」「交通安全」「災害安全」の安全教育を推進し、子供たちが生涯にわたり、安全に関する知識や技能を身に付け、地域の安全な社会づくりに参画できる人材となる必要があります。

このような人材の育成のため、県教育委員会では、「静岡県防災教育基本方針」と教職員用学校安全教育指導資料である「命を守る力を育てる～学校教育活動全体で進める安全教育～」を策定し、各学校が系統的かつ横断的に実施、指導できるよう「命を守る教育」を進めてきたところであります。

しかしながら、急速に変化する社会情勢や交通事情等の影響により、子供たちが学校内外で事件・事故に巻き込まれる事案が増加していることに加え、想定される南海トラフ巨大地震や頻発する豪雨等の自然災害への対策も急務であることから、顕在化している課題と今後想定される新たな危機事象に対して、更なる学校安全計画の充実と、教職員の「安全」に対する意識の向上が必要であります。

そこで、今回、これまで策定した基本方針と指導資料に代えて、「自他の命を守るための適切な判断・行動ができる人」を育てることをねらいとし、「生活安全」「交通安全」「災害安全」の学校安全の3領域の要素などを盛り込んだ体系図を新たに示し、発達段階に応じて身に付けてほしい資質・能力を分かりやすく、明確にした冊子を作成しました。

本冊子を基にして、全ての教職員が共通理解のもと、各学校が策定する学校安全計画を通じて、各教科の授業や特別活動の時間、総合的な学習の時間など学校活動の様々な場面で「安全」に関する取組が効果的に実践され、子供たちが自他の生命尊重を基盤として、自ら安全に行動し、他の人や社会の安全に貢献できる人となることを願うものであります。

令和2年3月

静岡県教育委員会
教育長 木苗直秀

目 次

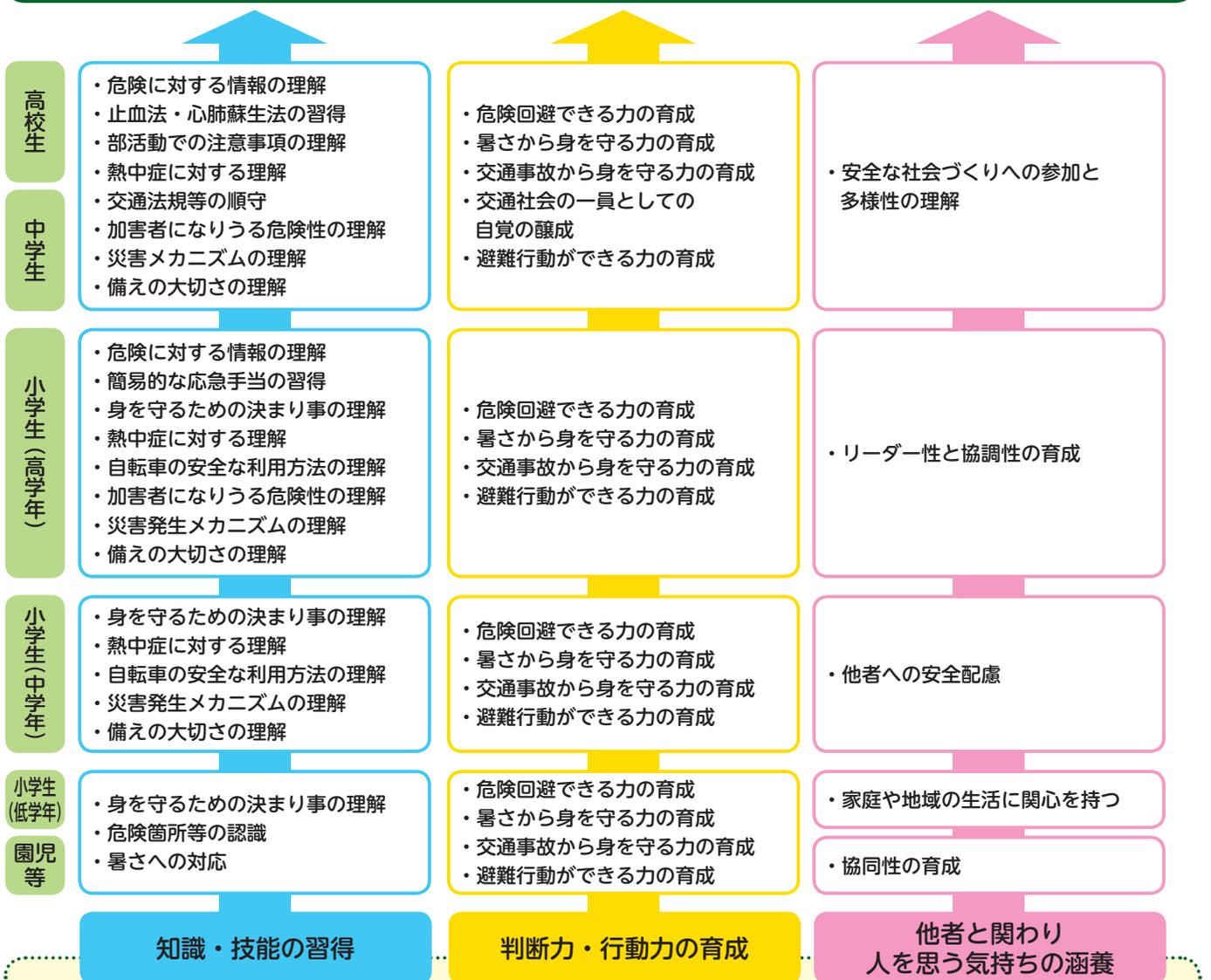
1	静岡県学校安全教育目標	1
2-(1)	発達段階に応じた学校安全教育目標 (園児等)	2
2-(2)	// (小学校低学年) ...	3
2-(3)	// (小学校中学年) ...	4
2-(4)	// (小学校高学年) ...	5
2-(5)	// (中学生)	6
2-(6)	// (高校生)	7
3	学校安全計画の推進 (学校安全教育の進め方)	8

1 静岡県学校安全教育目標

全ての児童生徒等が、日常生活において、危険な状況を適切に判断できる知識と、回避するために主体的に行動する能力を身に付け、自らが進んで安全で安心な地域づくりに参画・貢献できる人材の育成を目標とし、下表に体系図として整理しました。

また、次頁以降に発達段階に応じて身に付けてほしい安全に関する資質・能力を具体的に示すことで、各学校が策定する学校安全計画の充実を図るとともに、全ての教職員が「安全」に対する共通理解のもと、教育活動全体を通じて実践することにより「命を守る教育」の更なる推進を図るものであります。

自他の命を守るための適切な判断・行動ができる人



学校安全の3領域

- 生活安全：学校、家庭などの日常生活で起こる事件・事故（誘拐や傷害などの犯罪被害防止、熱中症などの健康被害防止も含まれる）
- 交通安全：様々な交通場面における危険と安全、事故防止
- 災害安全：地震、津波、風水害、火山、火災、原子力災害

今後想定される新たな危機

- 国民保護の観点など：学校への犯罪予告、周辺でのテロの発生等

特別支援学校においては、幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の指導内容に準ずるとともに、児童生徒等の障害の状態及び発達段階や特性等並びに地域や学校の実態を十分考慮して、適切な目標を設定する。

2-(1) 発達段階に応じた学校安全教育目標（園児等）

他者と関わり人を思う気持ちの涵養

協同性の育成



- 困っている人を助けることができる。
- みんなで協力して物事を実践できる。 など

知識・技能の習得

身を守るための 決まり事の理解



- 生活の中で用具の使い方を理解できる。
- 防犯標語「いかのおすし」※1を理解できる。
- 集団生活の中の約束事を理解できる。
- 交通のルールを理解できる。
- 地震から身を守る方法を理解できる。
- 避難時の約束「おはしも」※2を理解できる。

危険箇所等の認識



- 生活や遊びの場で川、海、山や崖など自然の特色を理解し、危険な場所や事物などが分かる。 など

暑さへの対応



- 帽子をかぶる、水分をとる、日陰で休むなど暑さへの対策方法を理解できる。 など

判断力・行動力の育成

危険回避できる力の育成



- 危険な状態を見つけたときや、自分や友だちの具合が悪いときは、先生や保護者などに伝えることができる。
- 遊びの中で危険回避につながるような機敏な動作を身に付ける。 など

暑さから身を守る力の育成



- 帽子をかぶる、こまめな水分補給ができる。
- 頭が痛い、気持ち悪いなどの症状が出たらすぐに先生や大人に知らせることができる。 など

交通事故から身を守る 力の育成



- 交差点で左右を確認して渡ることができる。
- 手を挙げて横断歩道を渡ることができる。
- 自転車に乗る時はヘルメットを着用することができる。 など

避難行動ができる力の育成



- 「おはしも」を実践し、避難訓練で先生や保護者の指示に従った行動ができる。 など

生活安全…、交通安全…、災害安全…

※1 防犯標語「いかのおすし」

- 知らない人についていかない
- 知らない人の車にのらない
- 危険を感じたら大声（おおごえ）を出す
- 危険な場所からすぐに逃げる
- 近くの大人に知（し）らせる

※2 避難時の約束「おはしも」

- 押（お）さない
- 走（はし）らない
- しゃべらない
- 戻（もど）らない
（津波避難の場合は走ることもある）

2-(2) 発達段階に応じた学校安全教育目標(小学校低学年)

他者と関わり人を思う気持ちの涵養

家庭や地域の生活に関心を持つ

- 学校生活や通学路で安全を守ってくれている人たちのことについて考えることができる。 など

知識・技能の習得

身を守るための決まり事の理解

- 学校施設の正しい使い方を理解できる。
- 防犯標語「いかのおすし」※1を理解できる。
- 身近な道路標識を理解できる。
- 自転車乗車時のルールを理解できる。
- 地震から身を守る方法を理解できる。
- 避難時の約束「おはしも」※2を理解できる。 など

危険箇所等の認識

- 生活や遊びの場で川、海、山や崖など自然の特色を理解し、危険な場所や事物などが分かる。
- 犯罪、事故、災害の観点から通学路の危険箇所を理解できる。
- 「子供110番の家」やコンビニなど通学路での避難場所を理解できる。 など

暑さへの対応

- 帽子をかぶる、水分をとる、日陰で休むなど暑さへの対策方法を理解できる。 など

判断力・行動力の育成

危険回避できる力の育成

- 防犯教室等で「いかのおすし」などを実践できる行動力を身に付ける。
- 授業等で危険回避につながるような機敏な動作を身に付ける。
- ヒヤリハットマップを作成するなどして学区内の危険箇所を共有できる。 など

暑さから身を守る力の育成

- 帽子をかぶる、こまめな水分補給ができる。
- 頭が痛い、気持ち悪いなどの症状が出たらすぐに先生や大人に知らせることができる。 など

交通事故から身を守る力の育成

- 日々の通学の中で「止まる」「見る」「確かめる」を実践できる。
- 手を挙げて横断歩道を渡ることができる。
- 自転車に乗る時はヘルメットを着用する。 など

避難行動ができる力の育成

- 「おはしも」を実践し、避難訓練で先生や保護者の指示に従った行動ができる。
- 「もし地震が起きたら」を考えることができる。 など

生活安全… 、交通安全… 、災害安全… 

※1 防犯標語「いかのおすし」

- ・知らない人について いかない
- ・知らない人の車に のらない
- ・危険を感じたら大声 (おおごえ) を出す
- ・危険な場所から すぐに逃げる
- ・近くの大人に知 (し) らせる

※2 避難時の約束「おはしも」

- ・押 (お) さない
- ・走 (はし) らない
- ・ しやべらない
- ・戻 (もど) らない
(津波避難の場合は走ることもある)

2-(3) 発達段階に応じた学校安全教育目標 (小学校中学年)

他者と関わり人を思う気持ちの涵養

他者への安全配慮



- 身近な人たちの安全を考えた行動ができる。
- 災害発生時には家族や友だちと助け合うことが必要だと理解できる。 など

知識・技能の習得

身を守るための決まり事理解

- 学校施設の正しい使い方を理解できる。
- 防犯標語「いかのおすし」※1を理解できる。
- 不審者侵入など、校内で発生する危機の対処方法を理解できる。
- 地震から身を守る方法を理解できる。
- 避難時の約束「おはしも」※2を理解できる。 など

熱中症に対する理解

- 熱中症の予防に対する正しい知識を理解できる。
- 熱中症の応急手当の仕方を習得する。 など

自転車の安全な利用方法の理解

- 自転車乗車時のルールを理解できる。
- 自転車に係する道路標識を理解できる。 など

災害発生メカニズムの理解

- 身近な地域で想定される地震、風水害、火災などのメカニズムと避難方法を理解できる。 など

備えの大切さの理解

- 身の回りや家庭での防災に対する備えの大切さを理解できる。
- 地域の防災体制の仕組みを理解し、災害発生時の家族の行動を理解・共有できる。 など

判断力・行動力の育成

危険回避できる力の育成

- 防犯教室等で「いかのおすし」などを実践できる行動力を身に付ける。
- 授業等で危険回避につながるような機敏な動作を身に付ける。
- 事故が起こる一歩手前の状況を理解できるとともに対処方法を身に付ける。
- ヒヤリハットマップを作成するなどして学区内の危険箇所を共有する。 など

暑さから身を守る力の育成

- 帽子をかぶる、こまめな水分補給ができる。
- 頭が痛い、気持ち悪いなどの症状をすぐに先生や大人に知らせることができる。 など

交通事故から身を守る力の育成

- 日々の通学の中で「止まる」「見る」「確かめる」を実践できる。
- 雨天や夜間などは、自動車から見えにくいことを理解して通行できる。
- 自転車に乗る時はヘルメットを着用する。 など

避難行動ができる力の育成

- 「おはしも」を実践し、避難訓練で先生や保護者の指示に従った行動ができる。
- 「もし地震が起きたら」を考えることができる。 など

生活安全… 、交通安全… 、災害安全… 

※1 防犯標語「いかのおすし」

- ・知らない人について いかない
- ・知らない人の車に のらない
- ・危険を感じたら大声 (おおごえ) を出す
- ・危険な場所から すぐに逃げる
- ・近くの大人に知 (し) らせる

※2 避難時の約束「おはしも」

- ・押 (お) さない
- ・走 (はし) らない
- ・しゃべらない
- ・戻 (もど) らない
(津波避難の場合は走ることもある)

2-(4) 発達段階に応じた学校安全教育目標(小学校高学年)

他者と関わり人を思う気持ちの涵養

リーダー性と協調性の育成



- 日常生活の中で下級生の模範となる行動ができる。
- 交通安全リーダーとして登下校時に下級生の安全に配慮した行動ができる。
- 地域で行われる防災訓練などに参加し、「共助」の必要性を理解できる。 など

知識・技能の習得

危険に対する情報の理解

- 報道されている事件・事故の原因や回避するために必要なことを理解できる。
- ヒヤリハットの状況を理解できる。
- 災害の種類や警報、避難情報を理解できる。 など

簡易的な応急手当の習得

- 二次的なけが防止と簡単な応急手当の仕方を習得する。 など

身を守るための決まり事の理解

- 不審者侵入など、校内で発生する危機の対処方法を理解できる。
- 地震から身を守る方法を理解できる。 など

熱中症に対する理解

- 熱中症の予防に対する正しい知識を理解できる。
- 熱中症の応急手当の仕方を習得する。 など

自転車の安全な利用方法の理解

- 自転車乗車時のルールを理解できる。
- 自転車に関係する道路標識を理解できる。
- ヘルメット着用の効果を理解できる。 など

加害者になりうる危険性の理解

- 自転車運転時など交通事故の加害者になりうる危険性があることを理解できる。 など

災害発生メカニズムの理解

- 身近な地域で想定される地震、風水害、火災などのメカニズムと避難方法を理解できる。 など

備えの大切さの理解

- 身の回りや家庭での防災に対する備えの大切さを理解できる。
- 地域の防災体制の仕組み及び、災害発生時の家族の行動を理解・共有できる。 など

判断力・行動力の育成

危険回避できる力の育成

- 日常生活の様々な場面において、これまで身に付けた知識を生かし、自らの判断で危険を回避することができる。
- 授業等で危険回避につながるような機敏な動作を身に付ける。
- 事故が起こる一歩手前の状況を理解できるとともに対処方法を習得する。
- ヒヤリハットマップを作成するなどして学区内の危険箇所を共有する。
- スマートフォン・SNS 等などに係る事件・犯罪に巻き込まれないための行動ができる。 など

暑さから身を守る力の育成

- 帽子をかぶる、こまめな水分補給ができる。
- 頭が痛い、気持ち悪いなどの症状が出たらすぐに先生や大人に知らせることができる。 など

交通事故から身を守る力の育成

- 自転車も自動車と同じ「車両」であることを理解し、交通標識を守って「止まる」「見る」「確かめる」を実践できる。
- 雨天や夜間などは、自動車から見えにくいことを理解して通行できる。
- 自転車に乗る時はヘルメットを着用する。 など

避難行動ができる力の育成

- 津波や風水害などの警報や避難情報を「自分ごと」として捉え、適切な準備と避難行動ができる。
- 「もし地震が起きたら」を考えることができる。 など

2-(5) 発達段階に応じた学校安全教育目標（中学生）

他者と関わり人を思う気持ちの涵養

安全な社会づくりへの参加と多様性の理解



- 地域で行われる防災訓練などに参加し、多くの地域の方々が自分たちの安全確保のために尽力していることを理解できる。
- 避難所では幼児、高齢者、障害のある方、外国人などへ配慮が必要なことを理解できる。 など

知識・技能の習得

危険に対する情報の理解

- 報道されている事件・事故の原因や回避するために必要なことを理解できる。
- 災害の種類や警報、避難情報を理解できる。 など

止血法・心肺蘇生法の習得

- 止血法、心肺蘇生法等の応急手当の仕方を習得する。 など

部活動での注意事項の理解

- 部活動のルールや決まり事、競技での危険なプレイなどを理解できる。 など

熱中症に対する理解

- 部活動中に多く発生している熱中症に対して、予防に対する正しい知識を理解できる。
- 熱中症の応急手当の仕方を習得する。 など

交通法規等の順守

- 自転車安全利用5則や静岡県自転車条例を理解できる。
- ヘルメット着用の効果を理解できる。 など

加害者になりうる危険性の理解

- 自転車運転時など交通事故の加害者になりうる危険性があることを理解できる。
- 自転車保険加入の必要性を理解できる。 など

災害メカニズムの理解

- 地震、津波、風水害、火山、火災、原子力災害などのメカニズムや避難方法を理解できる。 など

備えの大切さの理解

- 身の回りや家庭での防災に対する備えの大切さを理解できる。
- 地域の防災体制の仕組み及び、災害発生時の家族の行動を理解・共有できる。 など

判断力・行動力の育成

危険回避できる力の育成

- 日常生活の様々な場面において、これまで身に付けた知識を生かし、自らの判断で危険を回避することができる。
- ヒヤリハットマップを作成するなどして学区内の危険箇所を共有する。
- スマートフォン・SNS等などに係る事件・犯罪に巻き込まれないための行動ができる。 など

暑さから身を守る力の育成

- 環境条件や自らの体調・体質に合わせた運動、水分補給ができる。
- 体調が悪いと感じたらすぐに先生などに申し出て、活動を中止するなどの対処ができる。 など

交通事故から身を守る力の育成

- 自転車も自動車と同じ「車両」であることを理解し、交通標識を守って「止まる」「見る」「確かめる」を実践できる。
- 雨天や夜間などは、自動車から見えにくいことを理解して通行できる。
- ヘッドホンやイヤホンをしたまま自転車の運転をしない。
- スマートフォン等を操作するなどの「ながら運転」をしない。
- 自転車通学時はヘルメットを着用することができる。 など

交通社会の一員としての自覚の醸成

- 交通社会の一員として幼児、小学生の模範となる行動ができる。 など

避難行動ができる力の育成

- 地域の災害リスクを家族や友人と共有し、自他の安全を確保する行動ができる。
- 「もし地震が起きたら」を考えることができる。
- 津波や風水害などの警報や避難情報を「自分ごと」として捉え、適切な準備と避難行動ができる。 など

2-(6) 発達段階に応じた学校安全教育目標 (高校生)

他者と関わり人を思う気持ちの涵養

安全な社会づくりへの参加と多様性の理解



- 地域で行われる防災訓練などに参加し、地域社会の一員として安全な社会づくりに主体的に行動できる。
- 避難所では幼児、高齢者、障害のある方、外国人などへ配慮が必要なことを理解できる。 など

知識・技能の習得

危険に対する情報の理解

- 報道されている事件・事故の原因や回避するために必要なことを理解できる。
- ヒヤリハットの状況を理解できる。
- 災害の種類、警報や避難情報を理解できる。 など

止血法・心肺蘇生法の習得

- 止血法、心肺蘇生法等の応急手当の仕方を習得する。 など

部活動での注意事項の理解

- 部活動のルールや決まり事、競技での危険なプレイなどを理解する。 など

熱中症に対する理解

- 部活動中に多く発生している熱中症に対して、予防に対する正しい知識を習得する。
- 熱中症の応急手当の仕方を習得する。 など

交通法規等の順守

- 自転車安全利用5則や静岡県自転車条例を理解できる。
- ヘルメット着用の効果を理解できる。 など

加害者になりうる危険性の理解

- 自転車運転時など交通事故の加害者になりうる危険性があることを理解する。
- 自転車保険加入の必要性を理解する。 など

災害メカニズムの理解

- 地震、津波、風水害、火山、火災、原子力災害などのメカニズムや避難方法を理解できる。 など

備えの大切さの理解

- 身の回りや家庭での防災に対する備えの大切さを理解できる。
- 地域の防災体制の仕組み及び、災害発生時の家族の行動を理解・共有できる。 など

判断力・行動力の育成

危険回避できる力の育成

- 日常生活の様々な場面において、これまで身に付けた知識を生かし、自らの判断で危険を回避することができる。
- スマートフォン・SNS等などに係る事件・犯罪に巻き込まれないための行動ができる。 など

暑さから身を守る力の育成

- 環境条件や自らの体調・体質に合わせた運動、水分補給ができる。
- 体調が悪いと感じたらすぐに先生などに申し出て、活動を中止するなどの対処ができる。 など

交通事故から身を守る力の育成

- 自転車も自動車と同じ「車両」であることを理解し、交通標識を守って「止まる」「見る」「確かめる」を実践できる。
- 雨天や夜間などは、自動車から見えにくいことを理解して通行できる
- ヘッドホンやイヤホンをしたまま自転車の運転をしない。
- スマートフォン等を操作するなどの「ながら運転」をしない。 など

交通社会の一員としての自覚の醸成

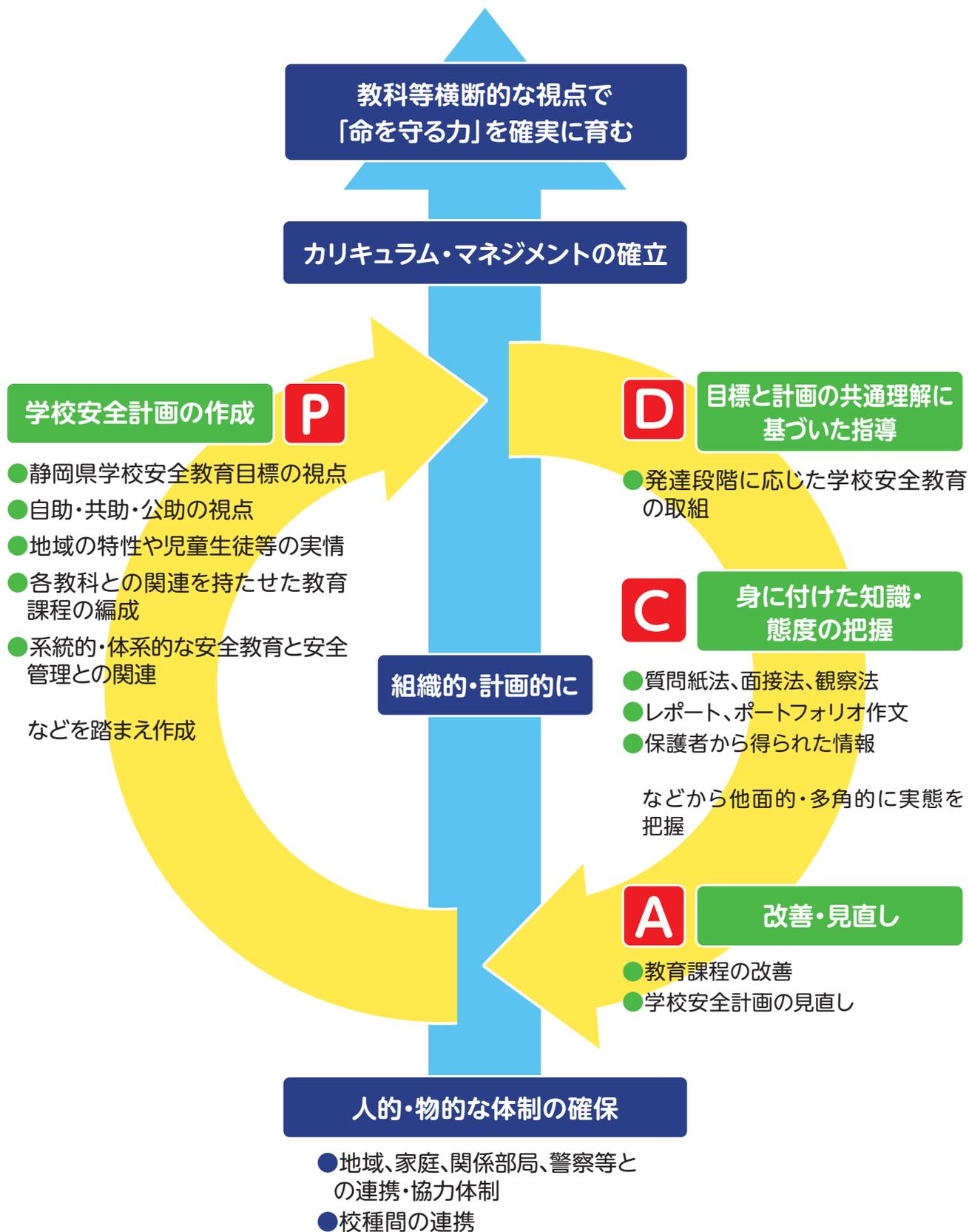
- 交通社会の一員として幼児、小学生の模範となる行動ができる。 など

避難行動ができる力の育成

- 地域の災害リスクを家族や友人と共有し、自他の安全を確保する行動ができる。
- 「もし地震が起きたら」を考えることができる。
- 津波や風水害などの警報や避難情報を「自分ごと」として捉え、適切な準備と避難行動ができる。 など

3 学校安全計画の推進（学校安全教育の進め方）

各学校が学校安全計画に掲げる 学校安全教育の目標の達成





命を守る力を育てる
～学校安全計画推進のために～
〈静岡県学校安全教育目標〉

発行 令和2年3月

発行者 静岡県教育委員会

監修 常葉大学大学院環境防災研究科 重川希志依教授
常葉大学教育学部生涯学習学科 木宮敬信教授

編集 健康体育課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

電話番号 054-221-2740